

# 多彩な選択科目や「マイタイム」の導入で、 自律的な学びと多様な進路実現を支える 群馬県立沼田高校

地域の中核を担う2校が統合して開校した群馬県立沼田高校は、生徒の多様な進路実現を支えるべく、「進学重視型単位制」を導入した。難関国公立大学の入試に対応した科目や、県内初の「教育」を探究する科目など、多彩な選択科目を設定。卒業までの履修単位数を弾力化し、科目を選択しない「マイタイム」を選べるなど、生徒が自律的に学ぶ環境を整えている。

## 教育課程 概要

学年による教育課程の区分：なし（進学重視型単位制）
学科・コース：普通科（普通コース、文理探究コース）
卒業までの履修単位数：77～95単位
各年次の履修単位数：1・2年次各32単位、3年次最大31単位
選択科目数：43科目（うち専門科目4科目、学校設定科目25科目）
各年次の選択可能な選択科目数：[普通コース]1年次1科目（2単位）、2年次4科目（9単位）、3年次最大8科目（最大18単位） [文理探究コース]1・3年次は普通コースと同じ、2年次は3科目（7単位）
指定校等：2024年度～DXハイスクール採択校（旧沼田高校と沼田女子高校の採択を継続）

### 教育課程 編成の背景・特徴

#### 地域の生徒の進路実現に向け、 進学重視型単位制に

群馬県立沼田高校は2025年度、旧沼田高校と沼田女子高校が統合して開校した。両校の統合は21年度末に決定し、直ちに両校の教師と群馬県教育委員会（以下、県教委）から成る準備委員会が組織され、新高校の基本構想の検討が始まった。本多勝校長は、両校の伝統を土台に、新高校としていかに発展させるかを大切にしたいと語る。

「両校は長年、地域の生徒の進路実現を支え、地域を担う人材を育成してきました。新高校はその使命を継承しつつ、県の教育ビジョンである『自律した学習者の育成』などに向けて、主体性や

探究、キャリア教育の重視などを掲げた学校運営方針を策定しました（図1）。そして、それらを土台に先進的な方策を取り入れ、より魅力的な学校をつくることを委員会内で確認しました」

地域の中核校として旧沼田高校に設置されていた定時制は継続とし、全日制については、阿左見充良教頭は次のように説明する。

「生徒の興味・関心や希望する進路は一人ひとり異なります。本校の全日制は進学重視型の単位制によって多彩な科目を設定し、生徒は希望進路に応じた科目を選択でき、発展的・応用的な学習に取り組みます。1年次からキャリア教育を充実させ、きめ細かな面談などを通して一人ひとりの進路実現に寄り添うことを大切にしました」

図1 教育目標、学校運営方針、育成する生徒像（抜粋）

#### 教育目標

高く理想を掲げ、主体的に真理を探究する精神を養い、多様な視点を持って新たな時代を切り拓いていくための資質・能力を育成する。

#### 学校運営方針（抜粋）

- 「自律した学習者」の育成を目指した主体的・対話的な学びの実現
- メディアラーニングセンターを活用した探究活動の充実
- 単位制の柔軟性を活かしたキャリア教育の充実

#### 育成する生徒像（抜粋）

グラデュエーション・ポリシー  
 ・主体的に生きる力 ・知識・技能を活用する力  
 ・社会を牽引する力

※学校資料を基に編集部で作成。

#### 「目の前の生徒に必要な学び」という視点から科目を設定

選択科目は43科目とし、うち専門科目を4科目、学校設定科目を25科目設定した（図2）。同校には発展的な学習に取り組み「文理探究コース」が設置されているが、一部の科目以外は、すべてのコースで選択が可能だ。

「選択科目は多彩で、難関国公立大学や医学部の入試に対応する科目を始め、芸術・家庭・体育に関する発展的な科目や、高度デジタル人材の育成を見据えて『情報Ⅱ』も設定しました。科

# 生徒の可能性を「開花」させる教育課程の柔軟化 —何ができるのか？ どう実現するのか？

**学校概要**  
 設立 2025（令和7）年  
 形態 全日制・定時制／普通科／共学  
 生徒数（全日制） 1学年約200人  
 2024年度卒業生（\*）進路実績（全日制） 国公立大は、筑波大、群馬大、埼玉大、東京学芸大、新潟大、金沢大、群馬県立県民健康科学大、群馬県立女子大などに55人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、中央大、東京理科大、法政大、明治大、立教大、早稲田大などに延べ249人が合格。短大・専門学校進学41人。就職12人。

※同校は統合1年目であるため、全教師が赴任1年目。



1学年主任  
**岡田真輔**  
 おかだ しんぺい  
 英語科。



教務主任  
**西山茂樹**  
 にしやま しげき  
 数学科。



企画部長  
**原澤亮太**  
 はらさわ りょうた  
 地理歴史・公民科（地理）。



教頭  
**阿左見充良**  
 あざみ みつよし



校長  
**本多勝**  
 ほんだ まさる

図2 選択科目

教科	科目
各学科に共通する各教科・科目	国語 文学国語、国語セミナー■、古典講読■
	地理歴史 地理探究、日本史探究、世界史探究、地理詳論A・B★、日本史詳論A・B★、世界史詳論A・B★
	公民 政治・経済
	数学 数学Ⅲ、数学B●、数学C、理系数学特講■、文系数学特講■、数学セミナーI・II■
	理科 物理、化学、生物、医療化学◆、物理基礎セミナー■、化学基礎セミナー■、生物基礎セミナー■、科学論文★
	芸術 音楽II▲、美術II▲、音楽セミナー■、美術セミナー■
	外国語 時事英語■▲、スピーキングイングリッシュ■▲、応用エッセイライティング■、科学英語■
情報 情報II▲	
主として専門学科において開設される各教科・科目	家庭 保育基礎▲、フードデザイン▲
	体育 スポーツ総合演習●
	英語 総合英語I●
学校設定教科	探究 マイ探究■、教職基礎■▲

●：普通コースのみ（数学Bは文理探究コースでは必修）、■：学校設定科目、◆：学校設定科目（普通コースのみ）、★：学校設定科目（文理探究コースのみ）、▲：2年次または3年次で選択できる科目  
 ※学校資料を基に編集部で作成。

目選択の柔軟性を高めるとともに異学年が一緒に学ぶ場をつくらうと、2年次または3年次で選択できる科目も設定しました（教務主任・西山茂樹先生）

設定する選択科目は23〜24年度に検討した。まずは両校の各教科会議で考えた、設定したい科目案を合同教科会で検討し、その結果を各校に持ち帰って議論。再び合同教科会で検討するという工程を繰り返して、24年10月に確定した。合同教科会には県教委も毎回参加し、教師の配置などを相談しながら議論を進めた。企画部長の原澤亮太先生は次のように振り返る。

「県教委からは『ひとまず教師の配置は気にせず、設定したい科目を出しましょう』と話があり、選択科目数の上限は決めませんでした。そこで、目の前の生徒にはどんな学びが必要かという視点から、まずは検討していきました」

例えば英語科は、医学部志望者を想定した「科学英語」を設定。学校運営方針である探究活動やキャリア教育の充実の視点から学校設定教科「探究」を設け、「総合的な探究の時間」での探究学習をさらに深める科目「マイ探究」と、教育をテーマに探究する科目「教職基礎」を設定した。

「『教職基礎』は、毎年度一定数いる教職志望の生徒を地域の学校教育の未来につなげたいという思いを持った教師による発案を基に設定しました。県内で初めて設定される科目ですが、元の大学や教育機関と連携した講義・

**教育課程 運用の工夫**  
 3年次の科目選択を見通し、1年次から将来を考える  
 単位制の教育課程では、将来を見据

演習や、地域の小・中学校、特別支援学校と連携したフィールドワークなどを行う予定です」（阿左見教頭）

また、「自律した学習者の育成」に向けて、各年次の履修単位数や各年次に配置する科目を工夫した。1年次は必修科目の大半を配置して32単位とし、2・3年次の科目選択の自由度を高めた。卒業までの履修単位数も弾力化。3年次は科目を選択せずに自分の学習を調整する「マイタイム」を選べるようにし、履修単位数を最大31単位とした。さらに、「総合的な探究の時間」を前期に2コマ連続で配置して単位修得を完了させ、後期はその2コマを生徒の自己裁量の時間とした（P.12図3）。

「24年度に沼田女子高校で、試験的に学年単位で授業を休講にし、生徒の自己裁量とする時間を数回設けたところ、生徒は自分で考えて学習に取り組んでいました。趣旨をしっかりと伝えれば、生徒は自己調整して学べるのだと、『マイタイム』を導入する意義を実感しました」（原澤先生）

\* 旧沼田高校と沼田女子高校の卒業生。

図3 3年次前期 文系生徒の時間割(例)

	月	火	水	木	金	D カセット
1	論理国語	体育	英語コミュニケーションⅢ	文学国語	日本史探究	古典探究
2	A マイタイム	日本史探究	政治・経済	数学C	文学国語	英語コミュニケーションⅢ
3	政治・経済	数学C	A マイタイム	化学基礎セミナー*	政治・経済	論理・表現Ⅲ
4	日本史探究	化学基礎セミナー*	論理・表現Ⅲ	論理国語	体育	
5	古典探究	政治・経済	B 教職基礎*	日本史探究	C 総合的な探究の時間	
6	英語コミュニケーションⅢ	LHR	教職基礎*	英語コミュニケーションⅢ	C 総合的な探究の時間	

□: 選択科目 \* : 学校設定科目

- A** 3年次は、科目を選択せずに自分の学習を調整する時間とする「マイタイム」の選択が可能。探究学習や受験勉強のほか、面談や小論文・面接指導などでの活用を想定している。「マイタイム」の活動計画・報告は、担任に提出させる予定だ。
- B** 学校設定科目「教職基礎」は、5・6時間目と2コマ連続で配置することで、小中学校を訪れての活動や、放課後の活動に取り組みやすとした。科目設定にあたっては、他県の先進校を視察した。
- C** 3年次は履修単位数を最大31単位とし、「総合的な探究の時間」は、前期の金曜5・6時間目に配置。後期のその時間は科目を配置せずに放課後とし、年内入試の準備などに充てられるようにした。生徒は下校も可能。
- D** 1コマの授業時間を55分間、1日6コマとした。カセットの3コマ分を定期的に特定の曜日のコマと入れ替えて、「1単位=35単位時間」の授業時間を確保している。

※学校資料を基に編集部で作成。

えた科目選択がより重要になるため、1年次から大学・企業見学等のキャリア教育を充実させている。1年次9月には、2年次の科目選択に向けた説明会を開き、選択科目の一覧や注意事項をまとめた履修計画書を配布。担任は面談を重ね、丁寧に生徒を支援している。1学年主任の岡田真輔先生は語る。

「1年次に決めるのは2年次の選択科目のみですが、3年次の選択科目を見通して履修計画を立てるように指導し、探究学習でも『3年間でマイ・ス

トリーを語るようにしよう」と何度も伝えていきます。大学で学びたいことやその後の活躍の仕方など、どの生徒も将来をより主体的・具体的に考えるようになり、目指す職種で働く社会人の助言を受けて専門学校志望から大志望に変更した生徒もいます」

1学年団は、希望進路や選択予定の科目などをデジタルツールで調査し、1年生全員の回答を一覧化して教師間で共有。気になった点を伝え合う。「教師が1人で問題を抱え込まない

### 成果と課題

#### 地域の生徒のために、より柔軟に教育課程を考えていく

生徒が科目選択を通じて「自分は何に興味があるのか」「どんなことを学びたいのか」を突き詰めて考えることは、各教科・科目の授業において、「もっと知りたい」「関連することは何か」などと、学びが自分事化することにつながっている。教師も、生徒の将来を見据えた支援・指導をより強く意識するようになったという。

「面談では『何になりたいのか』『何を学びたいのか』と生徒に問うことや、それをきっかけとした対話が増えました。生徒の未来から逆算し、教科横断的な視点で年次ごとの学習内容を構築

する過程は、カリキュラム・マネジメントそのものです。履修指導を通じた支援は、教師全員がカリキュラム・マネジメントを主体的に推進する体制につながっています」(西山先生)

高校卒業後も高度な研究などを継続したい生徒を対象とした発展的・応用的な学習を行える学校設定科目を組み込める体制が整った。同時に、会議を精選して協議方法も工夫するなど、教師の負担軽減も図っている。「何かあれば話し合う」という連携体制の中で、まずは新しい教育課程を一巡させて基盤を整え、生徒の履修状況やニーズなどから改善を進めていく考えだ。

「25年度の高校入試では本校を選ぶ地域の生徒が増えて文理探究コースは県内で最も高倍率となり、本校への期待を感じています。開校時の改築では『学校全体を探究スペースにする』というコンセプトに沿って、メディアライニングセンターを始めとする、探究や対話しやすいスペースを校内の各所に設けるなど、柔軟な教育課程によって生徒が自らデザインした学びを深める環境も整っています。教師と生徒がともに対話を大切にしながら、より魅力的な学校となることを目指し、挑戦を続けていきます」(本多校長)